

平成 29 年 9 月 28 日

日本ペストロジ学会 会員各位

日本有害生物研究会
会長 金山 彰 宏

第 30 回有生研フォーラムのご案内

日本有害生物研究会では第 30 回有生研フォーラムを下記のとおり開催することになりました。日本ペストロジ学会会員の皆様にも多数ご参加いただきたく、ご案内いたします。

記

1. 日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土） 13:30～16:50
2. 場 所：日本環境衛生センター東京事務所
(港区新橋 2-3-14 エディフィチオ・トーコー 7F702 号室)
TEL:03-5405-4177 FAX:03-5405-4178
アクセス：都営大江戸線・ユリカモメ「汐留駅」10 番出口より徒歩 3 分
JR・都営浅草線・東京メトロ「新橋駅」烏森口より徒歩 5～7 分
都営浅草線・東京メトロ「大門駅」A2 出口より徒歩 7 分

3. 第 30 回有生研フォーラム (13:30～16:50)
(参加費：会員は無料、非会員は 1,000 円。
尚、当日の入会を歓迎致します。年会費は 3,000 円です)

講演 I

座長：秦 和寿 氏 (元・東京都衛生局) 13:30～14:50
 演題：「カベアナタカラダニとコウモリノミの生態について」
 講師：大野 正彦 氏 (元・東京都健康安全研究センター)
 (講演 13:30～14:30、質疑応答 14:30～14:50)

講演 II

座長：橋本 知幸 氏 (日本環境衛生センター) 15:00～16:50
 演題：「イヌ・ネコを感染源とする寄生虫症」
 講師：内田 明彦 氏 (麻布大学名誉教授・現ヤマザキ学園
 大学教授)
 (講演 15:00～16:30、質疑応答 16:30～16:50)

4. 懇親会：17:30～ ニュー新橋ビル 2 階 (新橋 S L 広場前)
 十米 (じゅうべい) TEL : 03-6268-8686.



☆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・☆

*会場の都合上、参加希望の方は、10月20日（金）までに、事務局（佐藤英毅）宛 FAX:044-288-5016 または
 E-mail:sato-hd@jesc.or.jp までお申し込み下さい。

*当日、フォーラム終了後は恒例により懇親会を行います。会費は毎回 3,000 円前後です。

フォーラム申し込みと同時に懇親会の出欠についてもお知らせ下さい。

*会誌「有害生物」15号の原稿を募集しております。有害生物に関連した総説、論文、報告や随筆など、
 振るってのご投稿お待ちしております。執筆要綱は会誌第14号116頁に掲載されています。発行は5月を
 予定しており、投稿締切は11月末となっています。叢書などの他、ご相談は色々受け付けております。

*会誌のバックナンバーをご希望の方は別紙1・2参照の上お申し込み下さい。送料は宅配便の着払いです。

一般財団法人 日本環境衛生センター

東京事務所のご案内

☆施設の概要

所在地：〒105-0021 港区東新橋2丁目3番14号
ビル名：エディフィチオ トーコー 7F702号室
室面積：135.87㎡ (41.10坪)
TEL：03-5405-4177 FAX：03-5405-4178

☆交通アクセス

- ・都営大江戸線・ゆりかもめ「汐留駅」10番出口より徒歩3分
- ・JR・都営浅草線・東京メトロ「新橋駅」烏森口より徒歩5～7分
- ・都営浅草線・都営大江戸線「大門駅」A2出口より徒歩7分

☆略地図



別紙 1.
170926

各 位

日本有害生物研究会
会 長 金 山 彰 宏

日本有害生物研究会会報「有害生物」の在庫処分について（運用）

日頃、有害生物研究会の発展にご尽力いただき感謝申し上げます。

会誌も 14 号を発行するに至りました。これまで、1 冊 1,000 円にて販売するほか、国会図書館への納本をはじめ公的機関 4 所への寄贈も行っておりますが、在庫が年々増加して保存場所に苦慮するようになりました。そこで 2017 年度の総会にて、在庫の保管は各号 20 部とし、発行後 3 年を経過したものは会員優先にて無償で頒布することが議決されました。有生研の会員へは有害生物 14 号にて周知されたところですが、未だ残余があり、会員外の皆様にも頒布できる段階になりましたので、ここに広くお知らせするところです。

記

- 1) 会誌「有害生物」は、これまでどおり 1 冊 1,000 円で販売することを基本とするが、発行後 3 年を経過したものについては、20 部を保存して他は無償にてお分けする。ただし、送料は宅配便の着払い等でご負担していただきます。
- 2) 11 号以降も順次、上記の配布対象としよう。
- 3) 尚、図書館等の公的機関への贈呈については、上記の頒布方法によりませんので、事務局までご連絡をお願い致します。
- 4) 新入会員については、前号を贈呈致し、積極的に入会を推進します。
- 5) 残余分は下記の通りです。逐次配送し、在庫分がなくなり次第終了と致します。叢書（1）、（2）についても、著者の栗原毅会員のご厚意により、同様の扱いとさせていただきます。

No.1 : 42 部、 No. 3 : 8 部、 No5 : 37 部、 No.7 : 35 部、 No.8 : 49 部、
No. 9 : 36 部、No.10 : 36 部、叢書(1) : 6 部、叢書(2) : 30 部

◎詳しくは、有害生物 12 号 89 頁からの総目次および分野別目次、14 号 113 頁を参照して下さい。

お問い合わせ等、ご連絡は下記へお願い致します。

*210-0828 川崎市川崎区四谷上町 10 番 6 号

(一財) 日本環境衛生センター 内 日本有害生物研究会事務局

TEL:044-288-4878 FAX:044-288-5010

担当：佐藤英毅、E-mail:sato-hd@jesc.or.jp

日本有害生物研究会の創立10周年を記念して、これまで発行した会報「有害生物、No.1~12」の「有生研叢書、1, 2」のタイトルを掲載しました。

会報「有害生物」発行号別・総目次

A list of contents in Proc. Res. Grp. Pestology
from No.1(2004) to No.12(2015) and titles of a series

No.1(2004.9)

日本有害生物研究会の発会にあたって	1
日本有害生物研究会 設立趣意書	3
日本有害生物研究会会則	4
栗原 毅：日本でのデング熱媒介蚊	6-11
秋山 順：ロンドン留学回想	12-16
安居院宣昭：日本有害生物研究会の発足に思う	17-20
田中 生男：まあ、ぼちぼちと	21-22
田原雄一郎：斎藤一三さんに送る言葉	23
あり地獄の住人（田原雄一郎）：仲間意識	24-25
元木 貢：私と有害生物	26-27
記事、設立総会議事録、会員名簿	28-31

No.2(2005.6)

栗原 毅：日本の蚊学—1945年までの足跡をたどる	1-45
---------------------------	------

No.3(2006.8)

緒方 一喜：ねずみ害虫等のセンサス研究の歴史的考察	1-27
斎藤 一三：津和野の鯉と蚊幼虫	28
栗原 毅：日本の蚊学—1945~1960年の足跡をたどる	29-39
和田 義人：蚊についてのあれこれ	33-39
斎藤 一三：蚊にまつわる地名と由来	105-114
高橋 正和：JICAのシニアボランティア体験	115-124
田原雄一郎：人材育成—よきC/Pに恵まれて	98-101
会 報	114-117

No.4(2007.4)

上村 清：コガタアカイエカが多発生と日本脳炎ウイルス保有	1-9
内田 明彦：南米パラグアイ共和国におけるシャーガス病	10-24
緒方 一喜：緑園地域住民によるヒトスジシマカ防除作戦 —地区衛生組織活動の復活—	25-32
和田 義人：蚊についてのあれこれ（2）	33-39
矢部 辰男：日本に生息するネズミ（ネズミ科Muridae）目録	40-43
高岡 宏行・斎藤一三：日本産ブユ科の種目	44-60
斎藤 一三：日本のブユの方言集	61-82
伊藤 靖忠：殺鼠剤効力試験法のはなし	83-87
田原雄一郎：ゴキブリや動物の糞から得られる情報	88-97
田原雄一郎：登山と虫刺され	98-101
伊藤 高明：ベクター防除と私	102-106
石井 明：二十の扉：節足動物の世界の中に生きる人間	107-109
元木 貢：FAOPMAオーストラリア大会に参加して	110-113
会 報	114-117

No. 5 (2008. 4)

前田 理	コガタアカイエカが媒介する日本脳炎ウイルスの生態学	1-24
栗原 毅	日本の蚊学—1961~1970年の足跡をたどる	25-97
栗原 毅	本誌2号「日本の蚊学—1945年までの足跡をたどる」と 3号「日本の蚊学—1945~1960年の足跡をたどる」の訂正と補遺	98-102
和田 義人	日本産 <i>Culicoides</i> 属ヌカカ類の種目録	103-127
田中 生男	建築物衛生法のねずみ・害虫対策に取り入れられるIPM理念をめぐって	128-141
元木 貢	IPM: PCO業界における対応「IPMで仕事が変わる」	142-146
秋山 順	ブータンのマラリア	147-156
水谷 澄	奄美大島古仁屋での生活—フィールド試験, 大型台風とハブ—	157-168
金山 彰宏	加納先生からの手紙—このサソリは殺人には使えません—	169-173
角野 智紀	マレーシアからの便り	174-181
田原雄一郎	グアテマラー変わったもの、変わらないもの—	182-188
栗原 毅	書評 石井 明著「人類とパラサイト」	189
会 報	幹事会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領, 役員, 編集後記	190-194

No. 6 (2009. 4)

栗原 毅	ヒトスジシマカとヤブカの名称の遍歴	1-23
上村 清	日本産蚊科の種目録	24-43
高田 伸弘	日本産マダニ類およびツツガムシ類の種目録	44-66
葛西 真治	分子生物学から見たアカイエカ種群の種の問題と チカイエカに関する最近の知見	67-83
田付 貞洋	アルゼンチンアリのわが国への侵入と分布拡大	84-96
和田 義人	日本産 <i>Culicoides</i> 属ヌカカについて	97-98
和田 明	自治体の衛生害虫対策への取り組みと課題	99-121
田原雄一郎	グアテマラでの新規プロジェクト「住民参加型 監視体制の構築」調査に参加して	122-129
斉藤 一三	鹿児島県中之島におけるブユにかかわる伝説・昔話「ヒガシヨスケ」	130-132
正 誤 表		133
会 報	幹事会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	134-139

No. 7 (2010. 4)

和田 明	公開文書から見た終戦直後の地方衛生行政の動き—川崎市の場合—	1-34
田原雄一郎	ブラジルベレン市で開催された中南米シャーガス病 防圧イニシアチブ会議に参加して	35-43
澤邊 京子	遺伝子情報からわかる病害動物のこと	44-53
矢口 昇	シラミ、トコジラミなどの最近発生状況	54-65
倉橋 弘	日本産クロバエ科の種目録	1-76
三原 実	日本産ゴキブリ目の種目録	78-89
金山 彰宏	日本産の社会性ハチ・スズメバチ科、ミツバチ科の種目録	90-96
リチャード・ゴリス	日本産爬虫類の種目	97-104
田原雄一郎	数寄屋橋でワモンゴキブリの発見	105
会 報	幹事会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	106-110

No. 8 (2011. 4)

栗原 毅	俳句に見る江戸時代の蚊の観察記録	1-20
斉藤 一三	ヒト囟法によるヒトスジシマカの吸血時間に関する観察	21-22
斉藤 一三	東京都世田谷区等々力溪谷におけるブユ採集成績	23-25
斉藤 一三	神奈川県大磯町廃屋敷地における蚊の周年調査	26-34
田原雄一郎	エルサルバドル国における <i>Rhodonius prolixus</i> 消滅認定について —OPS評価メンバーに参加して—	35-39
田原雄一郎	パナマ共和国国立ゴルガス研究所とパナマのサシガメについて	40-42
田原雄一郎	中米諸国におけるシャーガス病防圧の進捗状況 —第13回有害生物研究会フォーラムにおける発表の要約—	43-52
渡辺 護	家屋侵入性カメムシの飛来の実態	53-69
会 報	幹事会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	106-110

No. 9 (2012. 5)

栗原 毅	：日本の近代的[蚊学] 発足当時の文献集	1-76
池庄司敏明	：古典日本文学にみる瘡	77-95
橋口 義久	：リーシュマニア症の現状と対策—新大陸とくにエクアドルを中心に—	97-128
三條場千寿	：日本におけるサシチョウバエ研究	129-140
森林 敦子	：ニクバエの休眠性について	141-153
平尾 素一	：東日本大震災時のペストコントロール協会の防疫活動	154-161
水谷 澄, 斎藤一三, 高橋正和, 佐藤英毅, 中野敬一, 秋山 順	：東日本大震災被災地における秋季の蚊の調査 2011	162-176
斉藤 一三	：ヒト囮法によるヒトスジシマカの各時間帯および気温帯における採集成績	177-183
秋山 順	：マラリア防除並びに媒介蚊対策に関する願望	184-188
田原雄一郎	：夜の昆虫観察会	189-190
早川 博文	：日本におけるアブ幼虫の俗称	191-192
会 報	：幹事会・総会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	195-201

No. 10 (2013. 5)

緒方 一喜	：わが国における衛生害虫防除事業の史的考察	1-26
斉藤 一三	：一独立家屋におけるゴキブリホイホイによるクロゴキブリの駆除	27-31
斉藤 一三	：神奈川県下の湧水におけるブユの生息調査	33-36
斉藤 一三	：神奈川県下各市町村におけるヒトスジシマカ <i>Aedes albopictus</i> の分布調査	37-39
稲岡 徹	：建設会社の昆虫専門家の仕事	41-46
田原雄一郎	：中米のシャーガス病の主要媒介種, <i>Triatoma dimidiata</i> にみられる変異と家畜化への道	47-52
秦 和寿	：登呂遺跡の高床式穀倉における「鼠返し・柄材および柄孔」とその「ネズミの類」	53-56
早川 博文	：日本におけるアブ成虫の俗称	57-59
田原雄一郎	：加納先生からの最後の葉書	60
秋山 順	：マラリア対策に関する“根絶 (eradication) と除去 (elimination) の違い”	61-62
水谷 澄, 斎藤一三, 高橋正和, 佐藤英毅, 中野敬一, 秋山 順	：東日本大震災被災地における2年目の蚊の調査 2012	63-78
田原雄一郎	：書 評	79-80
正誤表 (No. 9)		80
会 報	：幹事会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	81-86

No. 11 (2014. 6)

野田 伸一	：ミクロネシア連邦における蚊の分布：デング熱媒介蚊	1-10
栗原 毅, 三條場千寿	：百年前の「衛生動物」—医学誌等に見られた論文から—	11-25
元木 貢	：クマネズミの防除—ビルへの侵入経路—	27-39
<第20回フォーラム (2012. 12. 15)>		
松岡 裕之	：有害生物を有用生物にできないか	41-48
大滝 倫子	：虫刺されや疥癬の発症機序	49-59
<第21回フォーラム (2013. 2. 16)>		
谷川 力	：戸建住宅におけるネズミの問題点	61-64
矢口 昇	：高齢者宅におけるネズミ問題の実態	65-75
<第22回フォーラム (2013. 8. 10)>		
藤曲 正登	：千葉県でのヤマビルによる被害	77-84
斉藤 一三	：蚊遣りの方言集	85-96
秦 和寿	：伝統的な防虫法および防虫具 第1報 志らみひも	97-102
田原雄一郎	：Vietnam, Hanoi での熱帯アジアにおける輸入シャーガス病媒介蚊対策会議	103-107
田原雄一郎, 午頭 夕子	：チャドクガ皮膚炎顛末記	109-110
秋山 順	：“マラリア対策 有害な農薬蚊帳を配るな”に反論する	111-119
緒方 一喜	：日本有害生物研究会創立10周年を迎えて	120
会 報	：幹事会・総会議事録, 会員名簿, 有害生物執筆要領	121-126

栗原 毅、三條場千寿：日本の蚊学（2）近代化発足の頃 （明治の頃）の文献集 補遺	1-18
三條場千寿、栗原 毅：百年前の「衛生動物」 続	19-41
橋本 知幸：日本の室内塵性ダニ類種目録	43-49
<第23回フォーラム（2014. 2. 1）>	
佐伯 英治：小動物用医薬品市場からみた犬糸状虫（ <i>Dirofilaria immitis</i> ） と予防対策の実際	51-59
<第24回フォーラム（2014. 9. 20）>	
岩本 龍彦：PCOと薬事制度 ペストコントロール産業の社会的認知向上のために	61-69
高橋 史恵：寄生虫・衛生動物に関する依頼検査の概要（2005-2013）	71-74
斎藤 一三：アイヌ語衛生動物由来の地名の漢字移植による漢字名	75-78
斎藤 一三：百足寺の由来	79-81
元木 貢：料理はサイエンス	83-84
アンケート調査のまとめ	85-87
発行号別総目次	89-92
ジャンル別総目次	93-96
会 報：幹事会・総会議事録，会員名簿，有害生物執筆要領	97-101

有生研叢書シリーズ1 (2010. 4)

栗原 毅：日本の蚊学 研究経過をたどる	267pp
---------------------	-------

有生研叢書シリーズ2 (2013. 10)

栗原 毅：日本の蚊学(2) 近代化発足の頃の文献集	198pp
---------------------------	-------
